

第2学年 学級活動（2）学習指導案

日時 平成27年1月28日（水）

指導者 仙台市立荒浜小学校

教諭 曾根郁子・大内恵美

1 題材 ぼくのひじょうもちだしぶくろ

2 児童の実態と題材設定の理由

東日本大震災から4年近くが過ぎようとしている現在、復興住宅に移ったり、自宅を建築し引っ越したりと、子供たちの生活は大分安定し落ち着いてきている。反面、震災の教訓を忘れがちになりそうな懸念もある。そこで、昨年同様、身近な「非常持ち出し袋」を取り上げ、入れたい中身を考えさせることで、災害に備えるという大切さに気付かせ、防災意識を高めていきたいと思う。

2年児童4名は、震災当時、年少（3～4歳）であったこともあり、震災の記憶は、おぼろげである。1年生の時は、「津波を見てみたい。」「ヘリコプターで救助されたい。」などの安易な発言があったが、2年生になり、自分が体験したことを、「怖かった。」「寒かった。」「もう少し逃げるのが遅かったら大変だった。」などと、恐ろしさが再認識できるようになってきている。

本校独自に設けた防災教育（10時間・特別活動）では、1学期に、「あぶないよ map」を見直してもう一度危険個所のチェックをした。2学期は、津波を体験した地域の人達に非常持ち出し袋についてインタビューさせ、その結果から分かることをまとめながら、自分の「ひじょうもちだしぶくろ」に何を入れるか考えさせたい。さらに、この学習を児童が各家庭で話し実践することで、家庭でも準備をする行動につながることを願う。

3 研究との関連

研究テーマ

ふるさと荒浜から学ぶこれからの防災

学年部のねらい

身近な人たちの防災や荒浜の復興にかける思いを知り、自分たちにできることを考え実践しようとする児童を育てる。

視点と学年部の手立て

（1）児童が取り組む意欲を持てる教材の開発

・荒浜の人やものに関わることで児童が実践できる題材を考える。

（2）学びを整理し、考えを深めていくことができる単元構成の工夫

・年間を通した大きな単元の中で、振り返る場面を設定し、新たな課題に取り組ませる。

（3）荒浜小に適した災教育カリキュラムの改善

・荒浜の人たちの思いを汲み、取り入れながら、見直しを図る

4 活動計画 9時間扱い（本時は8時間目）

活動内容	指導上の留意点
<p>・仮設住宅の人達に非常持ち出し袋の有無や入れたいものについてインタビューする。</p> <p>インタビューの練習（1時間）</p> <p>JR アパートと東通り仮設を回り、インタビューする。（2時間）</p> <p>家庭でも同じことをインタビューする。（宿題）</p>	<p>・失礼のないように練習させる。</p> <p>・しっかりと聞きメモをするようにする。インタビュー以外のことを話してくれたらそれもメモをさせる。</p>
<p>・インタビューの結果をまとめ、荒浜の人達の現在の状況や思いを知る。</p> <p>なくて困ったものをまとめる（1時間）</p> <p>非常持ち出し袋の有無と入れたいものをまとめる（1時間）</p> <p>結果から分かることや、理由を考えさせる。（1時間）</p> <p>備蓄倉庫をもう一度見学する。</p> <p>昨年防災ダックの合言葉を復習する。（1時間）</p>	<p>・分かりやすく表にまとめる。</p> <p>・入れたいもの一つ一つについてなぜ必要なのか考えさせる。</p> <p>・入れたいものが備蓄倉庫にあることに気付かせる。</p> <p>・仮設の集会所にも似たようなものが備蓄されていたことに気付かせる。</p> <p>・防災ダックの動きの理由も理解させる。</p>
<p>自分や自分の家庭に合った「ぼくのひじょうもちだしぶくろ」を考える。（本時）</p>	<p>・備蓄するもの以外のすぐに持ち出せるものを作らせる。</p>
<p>・家庭でも自分の考えた非常持ち出し袋を提案し考え、学校で実際に作る。（1時間）</p>	<p>家庭で話し合っ、防災副読本の「ぼうさいリュックを用いしよう」の2015年版を作ってくる。</p> <p>・何を書いてきたか、全体で確認する。</p> <p>・学校にあるものは入れて、実際に作る。</p>

5 本時の展開

(1) 本時のねらい

自分や家族に合った「非常持ち出し袋Ⅱ」の中身を考えることができる。

(2) 本時の展開

過程	主な学習活動	主な指導・支援
導入 (15) 展開 (20)	1 「防災ダック」ゲームをする。 2 インタビューの結果のまとめを振り返る。 3 課題を知り、考える。	緊張を解きほぐしながら、非常時の行動の習慣化を図る。いくつかの動きについては、訳や目的地などを言わせる。 今までの学習を振り返らせながら、地域の人達の声を思い出させる。そして、本時の課題に結びつくことを理解させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 視点(1) 児童が取り組む意欲を持てる教材の開発・荒浜の人やものに関わることで児童が実践できる題材を考える。 </div>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ぼくの、「ひじょうもちだしぶくろⅡ」をつくろう。 </div> (1) 非常持ち出し袋に入れたいものを考える。 ・自分で入れたいと思うものを発表する。 ・教室の非常持ち出し袋を見る。 ・非常持ち出し袋に入れるもののカードを見る。 ・入れたいものを五つ選択する。	今回、備蓄できるもの(水や非常食、毛布など)を除いたコンパクトな持ち出し袋を作ることを理解させる。 思いつくままに発表させたい。 T2 教室の非常持ち出し袋もすぐに持ち出せるものであることを理解させる。 T2 カードを見て、種類や使い方を思い出す。 T2 サンプルを見ながら、横に置いてあるカード(マグネット付き)を五つ選び、自分のホワイトボードに貼らせる。 サンプル以外のもを入れたい児童には、何も書いていないカードにペンで書いて貼るように指示する。 教師も側において、使い方などを聞いてくる児童にはその都度説明やアドバイスをする。

<p>終末 (10)</p>	<p>(2) 発表する。 ・選んだものと選んだ理由を一人ずつ発表する。</p> <p>4 まとめをする。 ・今日の学習でわかったことや思ったことを言う。</p> <p>・ 次時の説明を聞く。</p>	<p>ホワイトボードをみんなに見せながら発表させる。友達の発表に感想などを言わせる。</p> <p>すぐに持ち出せるものを準備しておけば、いつでもあわてないで済むことに気付かせたい。※時間があれば、教師の選んだものも見せる。</p> <p>次時の防災の授業までに、コンパクトな非常持ち出し袋に入れるものについて、家庭でもいっしょに考えてくることを伝える。</p> <p>自分の意見をしっかり話すように励ます。</p>
--------------------	---	--

(4) 板書計画

<p>ぼくの「ひじょうもちだしぶくろⅡ」をつくろう。</p> <p>入れたいものは？</p> <p>あめ かいちゅうでんとう ゲーム ぬいぐるみ きるもの ふでばこ マスク</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 5px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; margin: 5px;"></div> </div> <p style="text-align: center;">「そなえ あれば うれいなし」</p>
--	--

(授業の様子)



防災ダツク楽しいよ！



非常持ち出し袋に、何をいれようかな。